

まちづくり懇談会議事録【公開用】

日 時：令和元年 10 月 19 日（土）18 時 30 分～19 時 53 分

場 所：杵臼自治会館

出席者：10 人

1. 開会
2. 町長挨拶
※配布資料確認および日程説明
3. 今年度のまちの動き（資料①）
※質疑応答
4. これからのまちづくり（資料②）
5. 懇談
6. その他
(1) 出前型政策・施策説明会「栗山町のまちづくり」について（資料③）
※質疑応答
7. 閉会

《質疑応答》

【栗山赤十字病院について】

町長：

日赤病院が最大の課題と思っている。1 市 4 町の連携を図ることが一番良いが、なかなか難しい。病院がまちづくりの核となる。ダウンサイジングしながら病院経営しているところもあるが、栗山町では建物の耐震性の問題があり、先送りできないため、他町との足並みが揃わない状況にある。

町民：

病院はなくてはならないものと認識している。広域連携に関しては、南幌町と長沼町は難しくても、夕張市だけでも連携して何とか日赤病院を維持してほしい。

救急外来がないと町民は不安になる。高齢化は進行するので、救急はなくてはならないと思う。

福祉総括：

南幌町 60%、長沼町 43%の入院患者は町外（札幌圏）に行っている。日赤病院の受診状況は、由仁町民が 10%、夕張市民が 7%、長沼町民が数%。それぞれの町で病院が改築問題を抱えている。由仁町、夕張市が病院を診療所にダウンサイジングしているが、由仁町は以降 10 年間の財政計画を立てているし、夕張市は財政問題を抱えているため、栗山町に拠点病院を置いてそこに拠出することはなかなか難しい状況になっている。日赤病院は耐震の問題もあるため、今年度中に今後の方向性を決めなければならない。

【北海道介護福祉学校について】

町長：

介護福祉学校についても、定員や教職員数を減らして維持していくが、難しい問題になっている。介護人材の不足が見込まれているが、他の町政課題もあるので、存廃についても考えていかなければならない。

町民：

介護福祉学校も栗山高校も、とても難しい問題だと思う。

町長：

介護福祉士の養成校が5年間で440校から370校に減っている。要因は入学者数の減少による経営悪化。国は介護人材不足に対し、外国人や有資格者、シルバー人材の掘り起こしを考えているが、うまくはいかないと思う。しっかりと技術と知識をもった介護福祉士を養成する学校が必要になってくると思う。専門職短大にステップアップできれば国の財政支援を受けられる。

教育長：

文部科学省が定める学校教育法の1条校の中に、公立小中学校、大学、高専が含まれているが、専門学校は含まれていない。1条校に含まれれば、生徒数に応じた交付金が自治体に入ってくるが、介護福祉学校は含まれないため、独立採算制で運営をしていかなければならない。介護福祉学校を専門職短大の扱いにランクアップできるように整理しているが、ハードルが高い部分もある。

今後5～10年の間に、町内でも150人から200人の介護福祉士が不足するとされている。町内施設で十分に機能を果たせるよう、介護福祉士を養成する必要があると考える。

町民：

現在の介護学生20人のうち栗山町の人は何人いるのか。町外の子どもを養成して、卒業後に町に残ってもらえないのに借金をして運営する必要があるのか。栗山町だけが頑張る必要があるのか。

町長：

国からも同じように、なぜ栗山町が単独で経営して他の町のために頑張っているのかと言われた。国からの指摘を受けて道に広域自治体としてリーダーシップをとってもらえるよう要請を出しているが、なかなか難しい。

教育長：

入学年によりばらつきがあるが、栗山町出身者は毎年2～3人入学し、卒業している。町出身者は就職先として栗山町を志望するが多い。現在の町の施設の採用状況として、新卒を一度にたくさん取るのではなく、需要に応じて若干名の採用募集をかけている。

【栗山高等学校について】

町長：

栗山高校も大変な状況になっている。

教育次長：

今年の栗山高校の入学者数 33 人のうち、栗山中学校から 19 人が入学。栗山中学校の卒業生は 86 人いて、岩見沢東高校 12 人・岩見沢西高校 11 人・岩見沢農業高校 9 人・岩見沢緑陵高校 17 人で、ほとんどが岩見沢方面に進学している。栗山中学校の生徒・保護者にアンケートをとると、栗山高校が選ばれない理由として、学力重視で良いところに行きたいという意見や、最近の栗山高校の校風、レベル低下があげられていた。しかし、今年、数年ぶりに栗山高校から 1 人、国公立大学に合格した生徒が出た。生徒の学力に差があるのは事実。

普通科のみで良いのかという問題もある。例として、三笠高校をあげると、とても人気だが地元中学生は一人も入学していないという状況がある。しかし、他町から高校生が集まることで賑わいが出てきている。今後どのように高校を維持していくか、さまざまな取り組みや営業活動を行っていく。来年度はなんとか 41 人を超えて 2 クラスを目指している。

【栗山駅周辺・商店街の活性化】

町長：

駅前の農協倉庫を購入して、DIY 工房と FM 局の開局を計画している。3 年後の設立・運営に向けて地域おこし協力隊を 2 人採用し、栗山町での 2 週間の研修を終え、今日から鎌倉市で研修を受けている。とても優秀な人材なので期待している。

拠点施設を法人化し、地域おこし協力隊 2 人に入ってもらえるような環境を考えている。公設民営方式で、なるべく公費負担のかからない、法人化により稼ぐ仕組みを考えている。FM 局はパーソナリティとして町民の方にボランティアで参加してもらい、災害時には役場からの情報配信に活用していきたい。